

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270201203		
法人名	医療法人社団 鳳雄会		
事業所名	グループホームゆうゆう		
所在地	千葉市花見川区犢橋町12番地3		
自己評価作成日	平成24年2月28日	評価結果市町村受理日	平成24年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人社会福祉士ネットワーク・ヒューマンレインボー
所在地	千葉県船橋市本町4丁目31-23
訪問調査日	平成24年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>食事において、旬の食材、産地直送の米の使用や盛り付けの工夫により、楽しい食卓作りに取り組んでいる。浴室においても、広く設計し浴槽から外がみえる快適な入浴を支援している。同法人の施設(介護老人施設)があり、必要に応じ、医師・看護師・PT・栄養士・等との相談、連携ができる体制にし、入居者のニーズに合わせた柔軟な支援を行っていると共に 合同行事や日ごろの交流を行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>悠・ゆったり、優・やさしく、友・ふれあう、邑・里づくりを基本理念に掲げています。理念は、職員が毎日の利用者の支援で身に付いていくものとホーム長の考えの下にあり、職員は笑顔がたえず、ゆったりと利用者へ接し、利用者との会話を大切にしている様子が伺えました。ホーム長は、職員とのコミュニケーションを活発に取り入れ、相談・提案を会議で検討し、運営に反映しています。非常勤職員から正職員への登用などの仕組みもあります。同法人内での各職種との相談・連携ができています。家族会や地域のボランティア等の参加や協力を得て、季節に応じた行事が活発に行われています。家族との交流を大切にしている行事は、家族に囲まれている笑顔の利用者の写真で把握できました。地域や家族と協調して、日々利用者と職員がともに楽しみながら支えあっているホームです。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一同いつも目に付く場所に「基本理念」を掲げ月一回の職員会議でも再確認し合っている。入居者の家族、ボランティアの方々が地域住民であることから交流も多い。又家族会も結成している	ゆとりをもって、やさしく、ふれあう、里づくりの理念は毎日の支援の中から身につけていくものとホーム長の考えの下に、月の職員会議、毎日の申し送り等で話し合い、確認している。事業所の理念が浸透している様子は、職員調査や利用者家族アンケートよりうかがえた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々を招いて、バーベキュー大会、夏祭り、餅つき大会等母体と合同で行っている。又近隣のグループホームと合同運動会も年一回開催している。	大勢の地域のボランティア参加による、バーベキュー大会、夏祭り、餅つき大会等、法人母体と合同で行っている。近隣のグループホームとも合同行事をしている。地元小学生のフラダンス、同法人の乳幼児施設からの訪問、退所した家族の楽器演奏を家族とともに楽しく過ごしている写真を通して、積極的に地域の交流がされているホームとうかがえた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方、家族会の方と運営推進会(年1~2回)行い、認知症と言う障害についての理解又支援方法として事例に基づき意見交換を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の理念に基づきサービス内容の説明、日々の利用者の方の生活状況を報告しながら話し合い意見があれば積極的に取り入れる様努力している。	運営推進会議は地域住民、あんしんケアセンター職員、民生委員の家族等の参加で構成されており、今年度は「認知症とは」「あんしんケアセンターとはどのようなところ」と認知症を理解してもらう、地域の資源を知ることを中心に開催された。	運営推進会議では日々のサービスや評価への取り組みに関する話し合いを充実させ、サービスの質の向上に繋げていくことが望まれる。このことから利用者、家族に参加してもらい、意見を求める工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当の方と自由に連絡し又その都度指示を仰ぐ時もある。千葉市のグループホーム協会を通じて市との連携を密におこなっている。	市のグループホーム協会を通して市の担当者に必要な都度報告しており、協力関係を築いている。高齢者福祉の動向や最新情報についても市担当者とは気軽に相談・質問できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加し職員会議にて研修で学んできたこと発表し共有している。	玄関は開放されており、居室も外からの施錠を行わない作りになっている。身体拘束や言葉による抑制について申し送り、職員会議、研修会を通して職員間での理解を深めている。身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、やむを得ず必要な場合には、家族とじっくり話し合いをして同意書もらい、きめ細かな報告をするような取り決めがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	千葉県主催・千葉市グループホーム協会主催の研修に職員が交替で参加できる様研修体制を整えて組織運営の健全化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	大まかに理解している。現在必要性のある利用者はいない。今後学ぶ機会を積極的に持ちたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	質問等には誠意をもって答えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の方と職員は自由に話合える様心がけており要望等には積極的に耳を傾ける様にしている	家族会があり、草むしり等の奉仕をもらった後バーベキューなどして親睦を深めており、気軽に意見を聴くようにして、信頼関係を育むなかで何でも言える関係を築いている。日頃から利用者の気になることは家族に電話連絡を入れている。家族間の交流を大切にしていることがうかがえた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議の他に意見箱を設けている	申し送り、職員会議には職員から意見・提案を聞く機会を設けている。管理者は、職員の休憩場所(食堂、ロッカー室)の日常のなかでも職員からの意見が言えるような関係作り心がけている。職員からのヒアリングで相談・提案という話し合う仕組みができていと確認できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	充分配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修を行うと共に、千葉市グループホーム協会に所属し会で開かれる研修に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市のグループホーム協会に所属し会合にはできる限り参加して所属下の近隣ホームとは相互訪問もしている。又合同運動会も開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	運営者、管理者、ケアマネジャーが様々な角度から係り他面的な見方でコミュニケーションを図る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談には面談、電話があるが、いつでも受け入れる体制でいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズ合わせながら、又事例を話ながら説明している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	社会的先輩としての尊敬している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等に於いてご家族の方からの協力を得支え合う関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との連携を図りながら、馴染みの方(以前住んでいた近所の方・勤めていた時の同僚等)との面会、外出を実現している。	友人の訪問や手紙、電話連絡の援助などを支援している。また利用者の要望にそえるよう、家族の協力のもとでお墓参りや外泊などする機会を作って、継続できる関係作りの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日利用者の洗濯物をたたむ作業を職員の誘導の下利用者の方々が参加している。又数人ではあるが食事後の皿洗いも参加しながら利用者同士の関係に支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も利用者、家族からの通信は受け入れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族、職員の情報を密にし本人本意の方向性を探る努力を常にしている。毎日の業務に於いて業務の申し送りを一日3回行い情報を共有している。	申し込みがあったら、必ず家族に見学を兼ねて説明、面接をしている。本人にはできるだけホームを見てもらい理解を得るようにしている。契約が決まると家族構成、生活歴や趣味、嗜好の情報等をきめ細かいアセスメントをとって、全職員が把握できるようにしている。日々の生活の中では、利用者に寄り添う事で思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から生活歴、暮らし方等聞き取れない事が多い為家族から今までの生活環境サービス利用の経過等を聞き取り検証している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員個々が利用者一人ひとりに対し、目配り、気配りを心がけると共に利用者個々には担当を置いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に見直しが生じた場合家族に相談し了承を得た上でサービス担当者会議を開催し現状に即した新たな計画を作成している。	ケアマネジャーと居室担当職員、利用者や家族に参加してもらい介護計画を作成するようにしている。介護計画は6ヶ月に一回見直すと共に、利用者についての意見・情報交換を行っている。身体、生活状況の変化に応じて随時介護計画を見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人健康チェック表とケース記録を活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人系列の老人施設が近隣にあり、看護師・PT・ST・栄養士・医師等に相談・連絡できる体制が構築されており、入居者のニーズに合わせた柔軟な支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアは積極的に受入、警察、消防には相談している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院との連携を図り、随時受診ができる様にしている。定期的(週1回)に訪問歯科診療を受けている。月2回の往診も受けている	協力医療機関を主に月2回の往診があり、随時受診もしている。訪問歯科診療が週1回実施しており、母体の老人保健施設から医師、看護師に相談できる体制があり、健康管理が適切にできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームには看護師が勤務していない為提携病院の看護師、医師との連携を密すると同時に母体施設(老健)の医師、看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師、看護師との話合いと家族との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期まで看取ってほしいとの家族からの要望はあるが提携医との相談の結果、入院対応をしている家族、提携医、職員の連携を密にし、できる限りの本人の支援に取り組んでいる。	ホームとしてはできる限りの支援を行うことを方針としているが、重度化した場合は、家族や医師も交えて利用者にとって負担のない最善の方法を、家族と話し合うように考えている。ホーム内で過ごすことが難しくなった場合には、入院加療や同法人への入所手続きなど情報を提供する支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の中には救命講習終了を持っている者もいる。今後も講習は積極的に参加を促し、職員会議等で事故発生時に備え訓練を行っていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所は目の前にある母体施設(老健)及び、ホーム敷地内駐車場となっており、避難訓練は定期的に行っている。	消火器、火災通報装置、スプリンクラー、火災通報専用電話を設置し、避難経路の掲示、災害時に通報する関係機関一覧表が目立つところに張られており、定期的に防災訓練が実施されている。また、食材等の備蓄がされており、法人母体との協力体制も構築されており、適切な災害対策がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対しての言動、プライバシーは職員間で注意し合っている。	新人の職員でも解るように書かれた内容のマニュアルが活用されており、一日3回の申し送り時、職員会議でも話し合い意識向上を図っている。不適切な言動や気付いた時には、その都度注意をし合っている。時には利用者から教えられることもあり、職員も言動を振り返ることもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人に合わせた対応を心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握する努力と実施を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の理美容師の方に定期的に訪問していただいている。又服装はその日に合わせて職員が朝コーディネートしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好み、嫌いな物を把握し楽しみのある食事している。今現在職員と一緒に食事の準備ができるレベルの利用者はいないが後片づけ(皿洗い)に参加している方はいる。	献立は自由に考え、一般家庭と同じように必要な食材を冷蔵庫に張り、ホーム長が、買い物当番を担い、そのときの旬な食材があれば臨機応変に対応している。年に7回の季節に合わせた行事食があり、家族会とともに楽しみの食事会を実施している。職員の提案から刻み、ペースト状食事も見た目に工夫をして現物に近いものにしていく。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表と献立表を活用して一人ひとりの状態を把握している。又食事(15分前)には全員嚥下体操を行いスムーズに食事が摂取できる様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄、歯磨き・うがい等個人に応じた対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。	利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めており、適切な誘導・声かけに努めている。高齢化・重度化が進む中で、利用者のADLや認知症の度合いをみながら、トイレで排泄を行うなどの支援を重ねている。きめ細かく記入された排泄パターン表を主治医に見てもらい病気の発見に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操を取り入れたり、朝食後・10時・昼食時・3時・夕食時・と水分量(1日の水分摂取量は1000cc以上を目安)を把握し、往診時、Drに報告し、指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の体調に合わせて、午前・午後入浴できる様にしている。(週3回は入浴実施)	入浴は週3回実施されている。本人の気持ちを汲んで、入浴をしたい時間帯に実施することもできている。入浴はマンツーマンで実施しており、ゆっくり入ってもらい昔話など会話が弾み意外な面も発見できる時間となっている。冬至にはゆず湯にする等、季節に合わせた入浴を楽しめている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は個室である為、テレビ鑑賞したり昼寝したり自由に過ごしている又リビングのソファでうたた寝している利用者もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の使用目的がわかる処方箋のファイルを用意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リビングでは、音楽DVDや映画を流したり、折り紙をしたり将棋・散歩等日々様々な取組をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員、又個別で散歩したり、食事会(回転寿司)は職員が企画して支援に努めている。その日の天候にもよるが近隣のグループホームに遊びに行ったり来たりして交流を図っている。外泊は家族の協力を得ている。	年間行事がレクリエーション担当者より豊富に組まれている。近隣のグループホームとの交流も活発に行われている。気候に合わせて、ウッドデッキでゆったりと過ごす、ホームの庭でお茶会など楽しんでいる。「流しそうめん」をウッドデッキで実施したことが利用者からは好評であった。	利用者家族アンケートからは、本人の行きたいところの外出支援が少ないとの意見があったが、日頃から実施していることが確認できている。定期的に様子を文章等で伝えるなどのコミュニケーション方法の工夫を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度は個人管理している利用者もいる。職員同伴にて近隣の主催しているバザーでの買い物又毎週火曜日・木曜日に訪問パン屋が来所する為、自由に買い物できる様支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方がホーム内の事務所の電話の子機で自由に連絡できる様配慮している。、手紙も書いていただき郵便屋さんへ渡す様にしている(近所にポストが無い為)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの共有スペースは採光もよく明るくゆったりとした空間を確保しており、廊下の壁等には季節感を取り入れた展示物を掲示している	居室の窓からは四季を感じる豊かな自然が広がり、廊下には利用者による習字の作品が飾られている。明るい食堂、広々としたウッドデッキではゆったりと時間が過ごせるようになっている。職員の目の届く所には静養室が確保されており、退院後の利用者も安心して過ごせている。ホーム内は掃除が行き届いて清潔感がある。温泉風の浴室にはリフト浴もできるようになっている。ホームと共に生活している愛犬は、利用者の癒しとなって人気者である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキ、廊下、リビングにはそれぞれソファや椅子を用意し、自由に使用できる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への私物の持ち込みには原則、制約は設けていない。畳とフローリングの2種類の居室を用意している。仏壇を持って来ている利用者もいる	和室と洋室の居室がある。部屋作り、模様替えは居室担当者が本人、家族に相談しながら行っている。利用者の居室には家族との温かいつながりの感じられる写真が程よく掲示されおり、使い慣れた筆筒、仏壇など持ち込まれている。電子ピアノが持ち込まれている利用者が奏でる音楽がやさしく聞こえていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリーにして、ドアは引き戸になっている。		